

群 教 セ	G08 - 03
	平 30.269 集
	商業

商業科目「ビジネス経済応用」における、既習事項を基に自らの考えを表現できる生徒の育成

経済的事象を事例とした

動画教材を活用したグループ学習を通して

特別研修員 大和 雅史

研究テーマ設定の理由

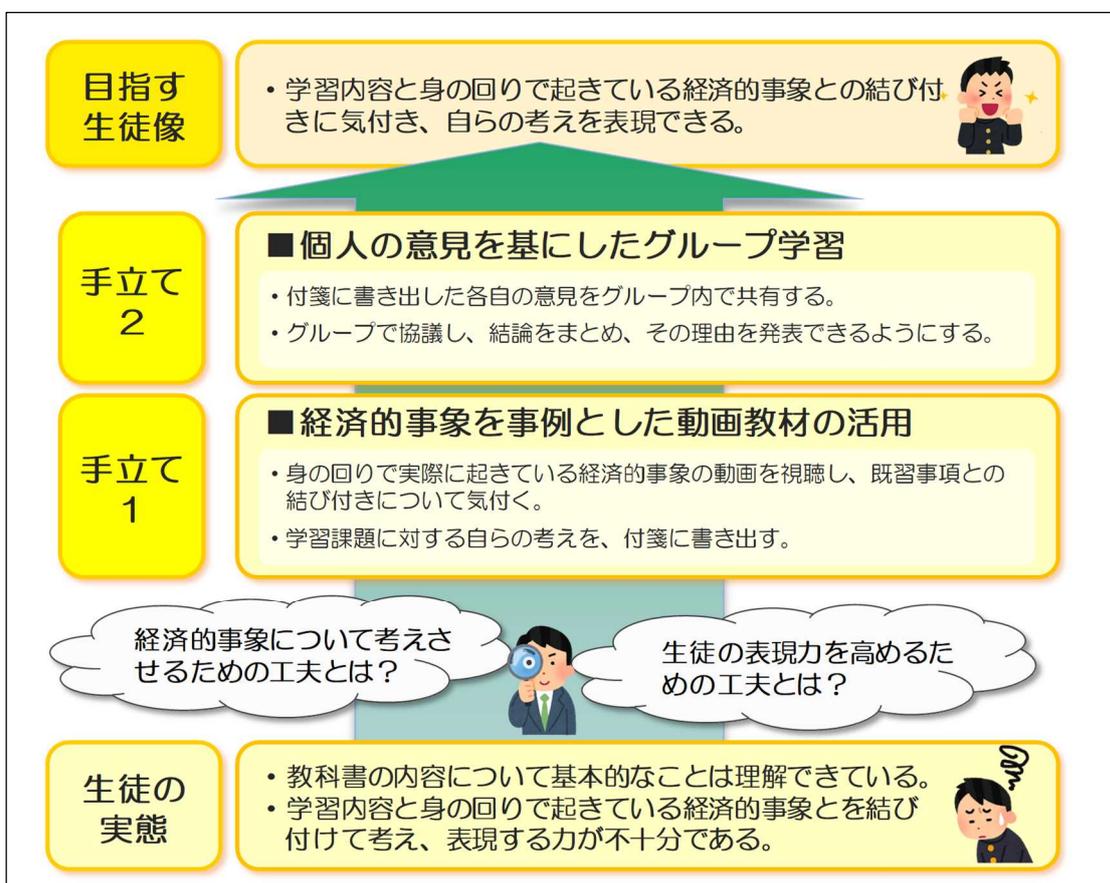
県立学校教育指導の重点（商業の目標）には、「商業教育においては、職業人として必要な倫理観や遵法精神などを身に付け、経済社会を取り巻く環境の変化に適切に対応してビジネスの諸活動を主体的、合理的に行い、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人の育成を推進する。」とある。また、学習指導要領に係る配慮事項として、「新聞、放送、インターネットなどを積極的に活用するなど、経済の国際化やサービス化の進展、情報通信技術の進歩など、ビジネスの諸活動に対して目を向けさせる。」とある。

研究協力校の生徒の多くは、商業の各分野に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得することはできている。しかし、教師による講義形式の授業が中心で、生徒が自ら考え、その考えを記述させることや発表させるといった指導が十分とは言えない。また、教科書で扱う用語を覚える等、知識を身に付けることが重視される傾向があり、実社会におけるビジネスの諸課題等に目を向ける機会が十分ではない。

そこで、既習事項を活用した学習課題について事例を提示し、個人で意見をもたせ、グループで協議、発表をさせることで、自らの考えを表現できる生徒を育成したいと考え、本テーマを設定した。

研究内容

1 研究構想図



2 授業改善に向けた手立て

経済社会の動向に目を向け、自らの考えを表現できる生徒の育成をするために、次の二つを手立てとして考えた。

手立て1 経済的事象を事例とした動画教材の活用

- ・身の回りで実際に起きている経済的事象の動画を視聴し、既習事項との結び付きについて気付く。
- ・学習課題に対する自らの考えを、付箋に書き出す。

手立て2 個人の意見を基にしたグループ学習

- ・付箋に書き出した各自の意見をグループ内で共有する。
- ・グループで協議し、結論をまとめ、その理由を発表する。

研究のまとめ

1 成果

○ 手立て1「経済的事象を事例とした動画教材の活用」について

動画の視聴により、教科書等の事例を紹介する場合と比べて、事例の内容が生徒に伝わっていた。

振り返りのアンケートの「経済社会の動向に興味・関心がもてた」という質問に対して、27名中25名が「よくあてはまる」「どちらかというにあてはまる」と回答した。また、県内にもあるフードバンクの事例を扱ったことで、これまで学習した内容と身近な経済的事象事が結び付いていることに気付くことができていた。そして、学習課題に対する興味・関心をもち、身近な事として捉えたことにより、課題意識をもち、自らの考えを付箋に書くことができた。

○ 手立て2「個人の意見を基にしたグループ学習」について

手立て1により、自らの考えをもてたことで、グループ内で様々な意見を出すことができていた。

また、振り返りのアンケートの「他者の意見は参考になった」という質問に対して、27名全員が「よくあてはまる」「どちらかというにあてはまる」と回答した。そして、学習課題に対する結論とその理由について、全てのグループが個人の意見を基にまとめ、発表することができた。

ブレインストーミングを取り入れることで活発に意見交換させることができ、課題解決に向けて効果的に思考・判断させることができたのではないかと考えられる。

また、「理解を深めることができた」という質問に対して27名中26名が「よくあてはまる」「どちらかというにあてはまる」と回答した。ほとんどの生徒が理解を深めることができたと回答しており、思考・判断・表現させるための工夫を行った結果が大きく影響したと考えられる。

○ 全体を通して

1回目の授業実践では動画教材の事例が海外のもので、内容も難しかったため、理解が不十分な生徒がいた。同様の実践を繰り返していく中で、教師が事例の動画を適切に選ぶことができるようになり、分かりやすく興味を引き出せるような授業実践を行うことができた。

また、実践を重ねるごとにグループ活動の質を高めることができ、活発な協議を行うことができるようになった。

2 課題

○ 教科書にある事例だけでなく、生徒の身の回りで起きている具体的な経済的事象を事例として示すためには、普段から様々なメディアをチェックし、ストックしていく必要がある。特に、地元の経済的事象や地域ビジネスの動向、地域資源に目を向けた教材を作成し、指導に取り入れていくといった工夫が必要である。

○ グループ学習の際、生徒用のタブレットを使ってインターネットで調べてもよいと指示したことで、学習課題の結論を、インターネットの検索結果から導こうとするグループがあった。生徒が書き出した付箋の内容や教科書等の既習事項を根拠として考え、結論付けるように促す工夫が必要である。

実践例

1 単元名 「企業の社会的責任」(第3学年・2学期)

2 本単元について

本単元では、環境問題への対応や社会貢献が企業に求められている現状及び法令遵守(コンプライアンス)、企業統治(コーポレートガバナンス)、説明責任(アカウンタビリティ)の重要性について学習する。また、企業活動が社会に及ぼす影響に責任をもつことの重要性について、生徒の身近な経済的事象の具体的な事例を通して学習する。

本単元は3時間で構成し、第1・2時では教科書で扱っている内容を学習し、第3時(本時)は、前時までに身に付けた知識を活用する。また、企業の社会的責任に関する学習課題について、動画教材を視聴し個人及びグループで考え、発表する。

目標	企業の社会的責任について具体的事例を通して把握させ、その質的变化や環境問題への取組や社会貢献が求められている現状について考察させる。	
評価 規 準	関心・意欲・ 態度	企業の社会的責任について興味・関心をもっている。
	思考・判断・ 表現	企業の社会的責任について、既習事項を基に考え、判断している。 「フードバンクへの寄付は企業の社会的責任といえるのか」について、グループで結論をまとめ、理由を発表している。
	技能	企業の社会的責任について調べ、得られた情報のもつ意味を読み取り、整理することができる。
	知識・理解	企業の社会的責任の基礎的・基本的な知識を身に付け、課題について理解している。
過程	時間	主な学習活動
課題把握	第1時	・企業の環境・エネルギー問題への対応について教師による説明を聞き、具体的な事例について考える。
課題把握	第2時	・内部統制の強化やコーポレートガバナンスの課題について、教師による説明を聞き、具体的な事例について考える。
課題追究 まとめ	第3時 (本時)	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">学習課題「フードバンクへの寄付は企業の社会的責任といえるのか」</div> <ul style="list-style-type: none"> ・食品ロスの問題に対する企業の取組についての動画を視聴し、既習事項を踏まえて個人で考える。 ・個人で考えた内容についてグループで発表し、共有する。 ・学習課題に対する結論についてグループでまとめ、全体で発表する。 ・個人で本時の学習内容について振り返る。

3 本時及び具体化した手立てについて

わが国では年間約632万トン(一人1日お茶碗約1杯分)の食べ物が捨てられてきたが、今では様々な企業がこの食品ロスの廃棄コストを抑えようとフードバンクへ寄付する取組を行っている。

本時では、このことについての事例の動画を視聴させ、「フードバンクへの寄付は企業の社会的責任といえるのか」について個人及びグループで考え、発表させる。また、グループ学習や発表の際には、生徒用タブレット型パソコンを活用させる。

手立て1 経済的事象を事例とした動画教材の活用

- ・経済番組で取り上げられた非営利団体のフードバンクに関する動画を視聴し、身の回りで起こっている具体的な事例と既習事項との結び付きについて気付く。
- ・動画を視聴し、学習課題に対する自分の考えや気付いたことを、各自で付箋に書き出す。

手立て2 個人の意見を基にしたグループ学習

- ・各自が付箋に書き出した内容をはっきりと読み上げ、グループ内で共有し、付箋を同種類の内容ごとにグルーピングし、タイトルを付け、グループの意見としてまとめていく。
- ・学習課題について、グループ内の結論と、その理由について、ワークシートに記入する。
- ・生徒用のタブレットを活用し、グループ学習において必要な事項を調べる。また、グループの結論等をまとめたワークシートをタブレットのカメラで撮影し、プロジェクタに提示してグループごとに発表する。

4 授業の実際

(1) 導入

これまでに学習した企業の社会的責任の内容について教科書を用いて振り返った。また、学習課題（フードバンクへの寄付は企業の社会的責任といえるのか）や食品ロスの問題について教師用タブレットPCとプロジェクタを利用して提示しながら説明し、本時のねらいを示した。

(2) 展開

経済番組で放映された非営利団体のフードバンク（セカンドハーベストジャパン）に関する動画を視聴させた（図1）。生徒は興味をもって、集中して視聴しており、気付いた内容についてメモをしていた。また、動画の内容を振り返らせるため、事前にまとめておいたキーワードをプロジェクタに提示し確認させた。生徒にはこの時点で、個人の意見として、フードバンクへの寄付が企業の社会的責任といえるのか判断させた。ここで出した個人の結論と、後で出すグループの結論を、授業のまとめで比較させた。



図1 フードバンクに関する動画の視聴

次に、動画の視聴及びキーワードによる振り返りから気付いたことや自分の意見について、付箋に書き出させた（図2）。「こんな仕組みがあるとは知らなかった」「無料でもらえるならば自分も欲しい」といったシンプルな感想や、「寄付によって、受け取る側の自立を妨げてしまうかもしれない」といった受け取る側の立場になって考えている意見が書かれていた。生徒には、一人3枚以上は書くように伝えたが、それ以上書くことのできる生徒がほとんどだった。

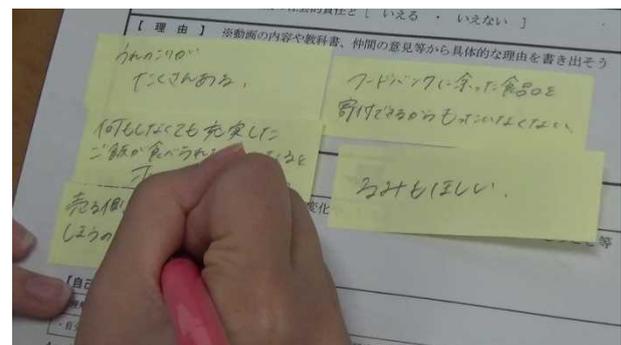


図2 自らの考えを付箋へ意見の書き出す

グループ学習の前半では、グループ内で意見を共有するために、各自が付箋に書いた気付きや意見を読み上げ、説明しながらA3の用紙に貼り付けさせた（図3）。各自の意見を読み上げる際は、グループのメンバーにはっきりと聞こえるように伝えた。また、付箋を貼り付ける際は、同じような意見の近くに貼り付けるようにさせた。



図3 付箋を読み上げながら貼り付ける

グループ学習の後半では、学習課題に対するグループとしての結論を出すための協議をさせた。

まず、付箋を同種類の内容ごとにグルーピングし、タイトルを付けさせた。グルーピングやタイトル付けがうまくできないグループには、他のグループを見て参考にさせた。また、必要に応じてタブレットPCで検索をしてもよいことを伝えた。グループによっては、インターネットから、フードバンクに寄付している企業や、動画で紹介されていたセカンドハーベストジャパンについて調べていた。企業の社会的責任について、教科書の内容を確認して、グループとしての結論を考えているグループもあり、既習事項を基に考えようとしていた(図4)。

結論をワークシートに書く際は、プロジェクトに提示した文字がはっきり見えるように、マジック等で大きめに書くようにさせた。机間支援をする中で、文字が細かい場合は上からなぞらせた。

各グループでまとめたワークシートをタブレットPCで撮影し、プロジェクトに投影して発表させた(図5)。ほとんどのグループが、フードバンクへの寄付は企業の社会的責任といえると結論を出していた。中には「企業はここまでやらなくてもよいのでは」といった結論を出したグループもあり、様々な考えを共有できる発表になった。

(3) まとめ

動画視聴直後に出した各自の結論と、グループ学習の中で出した結論の比較及びグループや全体発表の中で出された意見等、本時の学習内容を個人で振り返らせた(図6)。「フードバンクについて動画やパソコンで詳しく知っていき、グループで様々な意見を出し合うことで、新たな疑問や沢山のことを理解できた」「グループの結論が自分の結論と違ったが、意見を出し合うことで納得できた」等、自らの考えを表現することの重要性について気付くことができていた。



図4 教科書の内容を確認し考えをまとめる



図5 ワークシートを投影しながら発表

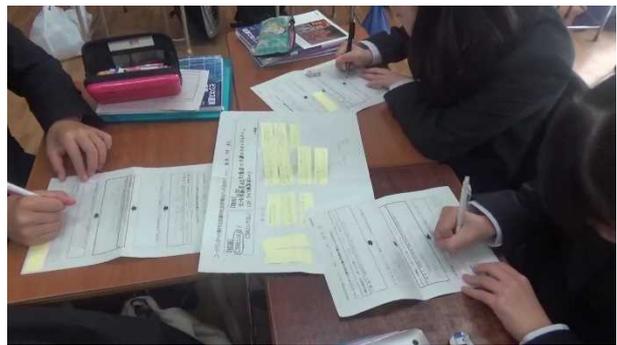


図6 各自とグループの意見を振り返る

5 考察

本実践では、経済的事象の情報が生徒に身近で具体的なイメージとして伝わるように、教科書や資料ではなく動画を利用した。また、既習事項を基に考えをもてる学習課題を設定することで、生徒の様々な考えを引き出すことができた。生徒の自己評価からは、9割以上の生徒が経済社会の動向に興味・関心がもてたことが分かり、「またやりたい」といった授業に対して前向きな感想が多かった。

グループで意見をまとめ発表する際、これまでは模造紙を使うことが多かった。本実践では、学習課題の結論やその説明、付箋をA3用紙にまとめさせ、タブレットPCで撮影しプロジェクトに投影させた。A3の用紙はコンパクトで意見をまとめやすく、全員が話し合いに参加していた。また、代表者が模造紙に書く時間を削減し、発表する時間を確保することができた。「模造紙にまとめなくても簡単に発表ができてよいと思った」というワークシートへの記述もあった。

本実践を通して、教師による講義形式の授業だけでなく、生徒の主体的な活動を中心とした学習の重要性を実感することができた。また、生徒が身に付けた基本的な知識を基に、学習課題の解決をさせることが、思考力や表現力の向上に有効であることが分かった。今後も継続して授業改善を行っていきたい。